

令和5年度第1四半期景況調査結果

1. 今期、来期の状況

商工会では管内50事業所を対象に景況調査を実施しています。

この調査は経営者へのヒアリングを通じて四半期ごとに売上高や仕入単価、採算等を産業別（製造業、建設業、小売業、サービス業）にDI値（※）により事業者の業況感を示すことで管内景気動向の参考とするものです。

※DI値とはDiffusion Index（ディフュージョン・インデックス）の略で企業の業況感等を指数化したもので、計算式は以下の通りです。

$$DI = \text{「増加」企業数} - \text{「減少」企業数} / \text{回答企業数} \times 100$$

建設業

	今期の状況						来期の見通し				
	R4.4-6	R4.7-9	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6	前期比	R4.7-9	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6	前期比
売上高	▲33	▲16	▲42	▲50	▲25	25	▲42	▲33	▲42	▲34	8
資金繰り	▲8	▲17	▲17	▲25	▲9	16	▲17	▲8	▲33	▲25	8
仕入単価	▲70	▲50	▲60	▲91	▲64	27	▲50	▲70	▲73	▲55	18
採算	▲25	▲25	▲25	▲33	▲42	▲9	▲25	▲17	▲50	▲33	17
業況	▲33	▲4	▲25	▲33	▲17	16	▲17	▲17	▲33	▲25	8

製造業

	今期の状況						来期の見通し				
	R4.4-6	R4.7-9	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6	前期比	R4.7-9	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6	前期比
売上高	▲11	9	10	27	13	▲14	0	20	0	0	0
資金繰り	22	▲9	▲10	9	25	16	▲9	0	▲27	0	27
仕入単価	▲56	▲70	▲78	▲64	▲63	1	▲70	▲78	▲73	▲63	10
採算	▲33	▲27	▲10	▲27	0	27	▲27	0	▲36	▲25	9
業況	▲44	▲18	▲10	▲9	▲12	▲3	▲9	0	▲45	▲12	33

小売業

	今期の状況						来期の見通し				
	R4.4-6	R4.7-9	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6	前期比	R4.7-9	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6	前期比
売上高	▲9	8	▲8	0	▲50	▲50	0	▲42	17	▲12	▲29
資金繰り	▲18	▲33	▲42	▲8	▲38	▲30	▲33	▲33	▲8	▲38	▲30
仕入単価	▲36	▲73	▲91	▲100	▲75	25	▲82	▲91	▲82	▲62	20
採算	▲36	▲33	▲50	▲58	▲75	▲17	▲42	▲50	▲42	▲50	▲8
業況	▲27	▲42	▲33	▲25	▲62	▲37	▲42	▲25	9	▲37	▲46

サービス業

	今期の状況						来期の見通し				
	R4.4-6	R4.7-9	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6	前期比	R4.7-9	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6	前期比
売上高	▲18	0	▲33	▲8	30	38	▲27	▲50	▲15	▲40	▲25
資金繰り	▲9	▲9	▲25	▲23	10	33	▲18	▲42	▲15	▲20	▲5
仕入単価	▲73	▲82	▲92	▲92	▲70	23	▲64	▲75	▲77	▲70	7
採算	▲18	▲45	▲33	▲23	▲20	3	▲36	▲25	▲23	▲20	3
業況	▲36	▲45	▲33	▲23	▲20	3	▲36	▲33	▲23	▲20	3

【所感】

「売上高」は、今期（4-6月期）は建設・サービス業では改善、製造・小売業では悪化しています。

来期（7-10月期）は建設業で改善、製造業は現状維持、小売・サービス業は悪化を見込んでいます。

「資金繰り」は、小売業は悪化、それ以外の業種では改善しました。来期は、建設・製造業が改善、小売・サービス業で悪化を見込んでいます。

「仕入単価」は、マイナス基調であるものの全業種で改善しており、来期も改善の予想となっています。

「採算」は製造・サービス業で改善、建設・小売業では悪化しました。来期は小売業以外では改善を見込んでいます。

「業況」は、建設・サービス業で改善、製造・小売業では悪化しました。来期は小売業以外では改善を見込んでいます。

総じて建設・製造・サービス業では改善の兆しが見えますが、仕入価格、光熱費、燃料代の高騰により価格転嫁が進まず非常に厳しい状況が続いています。

2. 設備投資

	R4.4-6	R4.7-9	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6
今期設備投資を実施した	5%	0%	16%	6%	11%
実施していない	95%	100%	84%	94%	89%
来期設備投資を予定している	2%	2%	8%	8%	5%
予定していない	98%	98%	92%	92%	95%

低調ではありますが、今期も概ね予定通りに設備投資が実施されたという結果になりました。
当期設備投資の内訳は車両運搬具、土地、工場建物、建物附属設備となっています。
来期の設備投資予定の内訳は工場建物で、老朽化に伴う修繕となっています。

3. 経営上の問題点

	R4.4-6	R4.7-9	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6
原材料価格の上昇		29	30	31	19
原材料費、人件費以外の経費の増加	7	12	14	15	9
ニーズの変化への対応	7	4	8	7	14
需要の停滞	8	9	7	10	9
生産設備の不足、老朽化	7	3	5	4	4
従業員の確保難	2	5	4	3	0
人件費の増加	3	7	4	3	5
製品(加工)単価の低下、上昇難	1	5	3	1	2
大企業の進出による競争の悪化			2	3	0
熟練技術者の確保難	1	1	2	1	0
新規参入業者の増加	1		1	1	0
原材料の不足	4		1		1
金利負担の増加	4		1	1	4
事業資金の借入難	3	2	1	1	4
取引条件の悪化	3			1	3
その他	2	5	5	3	1

前期に引き続き「原材料価格の上昇」、「原材料費・人件費以外の経費の増加」、「ニーズの変化への対応」等が多くの事業所から問題点として挙げられています。
また、「金利負担の増加」、「事業資金の借入難」の2項目が前回より増加しており、コロナ融資の返済開始や助成金等がなくなったことによる資金繰りの悪化が要因と思われます。

4. 自由記述

商圏内でコロナ感染が出たため宴会がキャンセルになった。4月は少し良かったが、5月は良くなかった。コロナ感染の影響が顕著に出る。
仕入単価の上昇が次々とおきており、値上げを検討している。(小売業)
ネット販売は継続的に売上があり、今後も注力したいと考えている。(製造業)
営業の時間を少しずつ元に戻ってきている。また、子連れのお客様なども増加していることに、希望を感じている。(サービス業)
部品代、材料代などの価格上昇で、消費者へのサービスの質を保つのが大変。(サービス業)
仕入単価、電気代、光熱費、ガソリン代の高騰により、資金繰りが追い付かない。(サービス業)
仕入や光熱費等の値上がりが続く、補助金が無くなると苦しくなる。節約志向が増えると、観光に向ける金額が減るのではないかと心配している。旅行支援が終わった後、人がどう動くのか。良い方向に動いて欲しい。(サービス業)

5. コメント

(全国の動向)

4月期の産業全体の業況は全DIが改善した。コロナウイルス感染症5類移行への報道を皮切りに、業種によってはコロナ禍前の景況感に戻りつつある。価格転嫁が進み、売上が増加し始めた業種もある一方で、コスト高や人手不足の問題がより深刻化している業種もある。

(管内の動向)

管内では、建設・製造業で回復基調が見られた一方、小売・サービス業では引き続き厳しい状況が続いています。
自由記述でもサービス業でコスト高を価格転嫁出来ず、サービスの品質維持や資金繰りに苦慮しているとの意見が寄せられました。
適切な商品サービスの価格設定のためには「どの部門が利益を生み出しているのか」、「売上に対する原価は幾らか」といった管理会計が欠かせません。商工会では小規模事業者の記帳指導も行っています。お気軽にご相談ください。